

削る前の症状

「丁寧さ」という名のノイズが、核を隠している。

- 伝えたいほど文章が増える
- 丁寧さが積み上がる
- 補足と言い換えが増殖
- 長いのに反応が出ない
- 最後まで読まれない
- 何を残したいかが薄まる

原因の正体

足し算で密度が崩れる

- 読者は数行で判断する
- 説明過多で離脱が起きる
- 発信者都合の一文が混ざる
- 感情が複数に散る
- 核が見えなくなる
- 余白が消えて投影できない

誤認の破壊

「**足す努力**」が結果を悪化させる

- × **長文** = **熱量** ではない
- × **丁寧さ** = **親切** ではない
- × **全部書く** = **伝わる** ではない

自分語りは価値保証にならない。補足は安心材料にならない。
上手さより設計が先。

引き算の基準

1. **なくても通じる文は削る**
2. **核感情は一つに絞る**
3. **残る一言を最後に置く**

- 発信者都合の文を外す
- 説明より余白を残す
- 読者の投影余地を確保
- 一文一役で再配置

変化の実感

記憶に残る「一言」が立ち上がる

- 読む距離が短くなる
- 自分の話として入られる
- 保存とコメントが増えやすい
- 主張が一発で残る
- 感情の迷子が減る
- 投稿後の手応えが出る

最小アクション

ワークフロー

1. 直近の投稿を一つ開く
2. 一文ごとに「削除判定」する
3. なじみのない感情語を一つに統一
4. 最後に残る一言を決める

- 発信者目線の一文を外す
- 三割短くして再読する

資料の使い方

投稿前の「削り基準」チェックリスト

- 添削前の自己点検
- 反応低下時の見直し用
- 長文化の抑制装置
- 残す一言の確認表
- 順番設計と併用する
- 毎回同じ視点で通す

次の選択肢

削って届く形に寄せる

- 過去投稿を一本削る
- 削る前後で反応比較
- 保存率の変化を見る
- 残る一言だけ先に作る
- 必要なら外から確認する
- 不要ならここで止める